

福音を伝える工夫

A. 家族に伝えるために

- ・自然に伝わった。
- ・小さい子どもには率直に語る。
- ・本（宗教的で、おもしろく読めるもの）をプレゼントする。
- ・料理を作って食べる集い（スペイン語グループ）

→どういう工夫があるか？

B. 職場など身近な人に伝えるために

- ・機会があるときに、自分がカトリックであることを表明する。一時変に見られても。
- ・話す機会があったとき（飲み会のときでも）、自分の信仰体験を語る。
- ・職場の変ないざごじにかかわらない。悪口の言い合いにかかわらない。
- ・カトリックの葬儀を通して。
- ・何かあるときに、カード（誕生日・クリスマス）をプレゼントする。
- ・興味がある人には、共に同伴する。クリスマスミサとか。
- ・その人が苦しみにあるときほど、親身にかかわる。
- ・その人に祈っていることを伝え、実際に祈る。

→どういう工夫があるか？

C. 見知らぬ人に伝えるために

- ・コンビニのイトインで何気ない話から。

→どういう工夫があるか？

D. 全体的な態度として

- ・宣教者であるという意識から出発する。
- ・まずは祈りから。宣教は聖霊のわざなので、祈りに始まり、祈りに終わる。
- ・感謝と喜びにあふれた態度で生きる。
- ・損得なしに人とかかわるように心がける。
- ・モノもヒトも大切に作る生き方（エコロイジー的にも）
- ・まわりの人から「変わっている」と言われる生き方。
- ・対立している人の前でへりくだる。

→どういう工夫があるか？

E. 対話の際に

- ・押しつけすぎず、隠さず、相手の話を聴くように。
- ・カトリックの専門用語を使わないように話す。

→どういう工夫があるか？

信仰を証しするエクササイズ

ジェームズ・ブライアン・スミス

『エクササイズⅢーともに神の愛に生きる』

p 86 - p 92 参照

1. 祈る

神に誰かを送ってくださるよう祈る。これはほとんどいつもすぐに応えられる力強い祈りです。聖霊は私たちよりはるかに賢く、知識に満ちておられる方です。また、その人が現れたとき、その人の必要を認識できる目と耳を与えてくださるよう祈ってください。

2. 観察する

祈ったなら、注意深く観察して、神に聞きます、「あなたが送ってくださる人が誰か見えるようにしてください。思いやりのある目を与えてください。誰のことか分からせ、いつ次の一步を踏んだらよいか教えてください」と。

3. 手を伸ばす

その人だと思ふ人が現れたら、その人に近づく方法を探してください。コーヒーを一緒に飲もうとか、ランチに誘うとか。すでに知っている人ならば、何かの折に「今の生活はどうか」と質問してみる。

4. 聴く

その人の話をよく聴いてください。ただ聴くだけで、あなたは愛を示しているのです。その人は何を求めているのでしょうか。この人の人生の中で、神はどこで働いておられるのでしょうか。

5. 結びつける

その人の心に引っかかっていることが何か見きわめることができたなら、その人の状況と福音のメッセージを結びつけるようにしてみましょう。その人の人生に起きていることと神がなさったこと、これからなさることとの間に結びつけることができるかもしれません。

6. 伝える

ある時点で、あなたの話や考えを話してくれるように、相手から求められるかもしれません。「抱いている希望について、いつでも弁明できるように備えていなさい」（1ペトロ 3,15）。福音のメッセージがどのようにあなたの人生と交わったかを伝えること。

7. 招く

人間関係を築いたある時点で、その人を受け入れてくれるクリスチャンの交わりに招いてください。大きな教会が怖いならば、小グループの勉強会に招くとか。奉仕活動に招くとか。

その人のために祈り続けてください。求道から洗礼まで、平均 28 か月かかる。

教皇フランシスコ『福音の喜び』より

120. 洗礼を受け、神の民のすべての成員は宣教する弟子となりました（マタイ 28,19 参照）。教会の中の役目がどんなものであっても、また信仰の素養に差があっても、洗礼を受けた一人ひとりが福音宣教者なのです。だから資格のある者だけがそれを進め、残りの信者はこれを受けとるだけだと考える福音宣教の図式は適当ではありません。新しい福音宣教は、洗礼を受けた一人ひとりが新たな主人公であることを意味しなければなりません。この確信は、すべてのキリスト者への直接の呼びかけとなります。福音宣教にかかわることをためらわないでください。なぜなら、救いをもたらす神の愛を経験している人ならば、それを告げに出向いて行くための準備の時間をさほど必要とはしないからです。たくさんの講座を受けたり、長い期間指導を受ける時間は必要ありません。イエス・キリストにおいて神の愛に出会ったかぎり、すべてのキリスト者は宣教者です。

127. 現在、教会は宣教の刷新に熱心に取り組もうとしています。ここには日々の務めとして私たち皆に課せられた1つの形があります。それは、身近な人にも知らない人にも、自分とかかわりをもった人に福音をもたらすということです。これは、会話の中で行ったり、誰かの家を訪ねた宣教者が用いるような、形式にとらわれない宣教です。弟子であればいつでも、イエスの愛を伝える心の準備があつて、通りや広場で、職場で、旅路で、どこでも自然に伝えられるようになるのです。

128. この宣教にはいつも相手への敬意と優しさがあつて、まず最初は、相手が自分のことを話したり、喜びや希望、愛する人についての思い、その他たくさんの心の中のことを分かち合ったりするような個人的な会話です。そのような会話をして初めて、みことばを伝えることができます。聖書の一節を読んだり、あるいは物語の形で解釈することもよいでしょう。とにかく一番重要なことは、基本的なメッセージを思い起こすことです。それは人となった神、私たちのためにご自分を与え、今なお生きて、救いと友情を私たちに差し出す神の愛です。このメッセージを伝える際には、謙虚な態度でそれを分かち合い、つねに学ぶ者としてあかしをしなければなりません。そしてそれが、私たちを超越した、深く豊かなメッセージであることを意識してなければなりません。

129. 福音のメッセージは、絶対不変の内容を表現するために、必ずしも学術的な特定の用語や厳密なことばをもって伝える必要はありません。福音は、それを説明することも分類することもできないほど、多種多様な様式で伝わります。